

# 行政報告

市議会6月定例会が6月5日に招集され、小畑市長が行政報告を行いました。その中から、主なものの要旨をお知らせします。

## 東日本大震災への対応状況

被災地のがれき処理は、秋田県と岩手県が締結した協定に基づいて、岩手県沿岸北部4市町村の災害がれきの広域処理について検討しており、6月中旬以降に、現地で放射性物質濃度や形状などの調査を行い、燃焼試験に向けて準備を進めることにしています。

本市の防災対策としては「避難所開設運営マニュアル」「広域的災害対応マニュアル」を策定し、大地震等が発生した際には、本マニュアルに従った対応を取るよう、職員に指示しました。また、高齢者や障害者などの要援護者については「要援護者支援管理システム」への登録により、民生委員などの協力で、正確な情報提供や円滑な避難支援ができるものと考えています。

防災協定については、東京都渋谷区、兵庫県篠山市との相互応援協定を初め、これまでに13の企業、団体と防災協定を締結してきましたが、5月23日に、警察署の機能が失われた場合の市施設の提供、被災者救援活動等の円滑かつ迅速な実施に向けた協力などを盛

り込んだ「災害時等における相互協力に関する協定」を大館警察署との間で締結しました。

また、本市の災害用物資の備蓄は年次計画を進めており、24年度も県の交付金を活用し、非常食、粉ミルク、紙おむつ等の購入を計画しています。

今後、東日本大震災で得られた教訓を踏まえ、あらゆる災害を想定しながら、地域防災計画の見直しや事業継続計画の策定などを行う。防災体制の強化に努め、市民の安全・安心を守ります。



大館警察署との協定締結式

## 農作物の生育状況

4月上旬の天候不順などにより雪解けが遅れ、農作業は平年より10日ほど遅れていましたが、4月下旬から5月初めにかけて天候が回復したことから、4日程度の遅れにまで回復しました。

基幹作物である水稲は、平年より3日ほど遅れて種まき作業が始まり、4月21日に盛期となりました。4月下旬から5月初めにかけては、気温の高い日が続いたため、育苗ハウス内で高温障害による出芽不良や立ち枯れの発生が見られました。田植え作業は、耕起作業が5月上旬の降雨により遅れたため、平年より3日程度遅れて5月10日ごろから始まりましたが、終期は平年並みとなりました。

野菜は、山の芋が平年どおり6月上旬までに定植作業が終了する見込みで、アスパラガスは平年並みの5月7日ごろから収穫が始まり、5月18日から23日までが収穫のピークとなりました。果樹は、ナシの「幸水」「豊水」が平年並みの5月7日ごろ、リンゴの「王林」「ふじ」は平年より若干遅い5月14日ごろに満開となり、開花量はナシは平年並み、リンゴは「ふじ」がやや少ない状況です。

## 大館市農業ビジョン

大館市農業再生協議会では、地域農業の安定的な発展と、持続可能な力強い農業の実現を目的に、国の「食料農業・農村基本計画」と県の「ふるさと秋田農林水産ビジョン」を踏まえ、市の最上位計画である「新大館市総合計画後期基本計画」との整合を図りつつ、平成24年から27年までの4年を計画期間とする「大館市農業ビジョン(大館市農業振興計画)」を作成し、5月22日の

総会で決定しました。今後は、本ビジョンに基づき、高品質米の生産、重点戦略作物の作付け拡大、比内地鶏や養豚などの畜産振興と堆肥の活用、水田の大区画化と汎用化等の推進、「人・農地プラン」策定による担い手と新規就農者の育成、経営規模拡大などに取り組みます。

## 市民の森休憩所のオープン

市民の森の休憩所は、昭和48年の建設から38年が経ち、老朽化により利用者に不便をかけていましたが、23年度、県の「秋田の木・利用推進木造公共施設等整備事業補助金」を活用して改築し、4月16日から供用開始しています。木造平屋建てでトイレと休憩室があり、延べ床面積は107平方メートル、材料には地元産の秋田杉をふんだんに使用しています。

また、市民の森では「秋田県水と緑の森づくり税事業」を活用し、24年度から3カ年計画で遊歩道等を整備することにしていて、新しい休憩所と合わせて、市民に親しまれる施設になるものと期待しています。

